

## 安全と「人」「物」「行動」「環境」

広島県立ふくやま産業交流館

永井 由希子

安全は、「人」「物」「行動」によって保たれるモノだと考えます。そして全てを整え、発揮できる「環境」であれば危険の確率は限りなく「0」へ近づける事が出来るのではないのでしょうか。

私達の周りにある万物は、全て危ない物に変化することがあります。例えば、ボールペンや、ホッチキスだったり、ハサミや、カッターナイフ、ペラペラのコピー用紙といった身近に使うごくありふれた物でも、使い方を間違えれば全て危ない物になります。しかし、正しく使えば危険とは程遠い便利な物、道具です。

元々危ない物であれば、それは物のせいです。しかしなぜ私達は、ありふれた物を危ない物にしてしまうのか。もちろん、知識不足や経験不足が要因の場合があります。どう使うか？どんな時に何を使うか？状況に合った選択をする知識を、経験・学習によって吸収していく必要があります。しかし、ほとんどは油断や気の緩み・・・「面倒くさい」「これくらいなら大丈夫」「まあいいか」等、自身の気持ちによるものです。365日、24時間、常に集中し気を張っていくことが出来る人はいないでしょう。いつか、どこか、なぜか・・・出来てしまう隙を狙われたかのように、注意深さが緩んだ瞬間、危ない物にしてしまいます。そこで、A：当たり前のことを、B：ビックリするくらいに、C：チャンとやろう！という正しい気持ちで、その場に合った正しい物を正しく使う。「人」「物」「行動」によって安全は保たれます。

組織においても同じことが言えます。違いは「環境」です。個人であれば一人で注意深くその場に合った道具を正しく使えば安全に業務を行うことが出来ます。しかし、私達は働くうえで誰かと何等かの関わりを持っています。上司、同僚、お客様など等、一人で完結する仕事はありません。このような状況の中で一人が危ない事をすれば関わる人々へも危険が及ぶ可能性があります。また、自分が正しい事をしていても他の関わる人から危ない事に巻き込まれる可能性もあります。一転、環境が整っていれば一人が危ない事をしようとしていたら、他の関わる人が止める事が出来ます。他の人の知識、経験に基づく手助け、助言などで未然に防げるのです。自身が危ない事に巻き込まれそうになったら間違えを正す。自身の知識、経験に基づく手助け、助言によって関わる人を危険から守れるのです。

このような「環境」を作るためにはコミュニケーションが大切になります。自身や他の人の危険を組織で共有をすることで疑似体験をする。気づき、もしかして？等思ったこと、あれ？と疑問に感じたことを話し合う。一人では到底体験できない状況を共有することで、より多くの経験を積む、また助言などで学習する。あらゆる視点からの原因究明、問題改善を行う。机上の空論ではなく実際に起こった問題に対する解決方法を、組織に属する多くの人で多方面からのアプローチで考えていく。大小様々な問題を色々と話し合える職場であることが、安全の意味である「心が落ち着いて身に危険が無い」職場と言えるのではないのでしょうか。